

令和5年度後期 子どもの提案 結果公表

中学生の皆様からお寄せいただいた主な提案の概要と
さいたま市の方針をまとめました。



さいたま市市長公室秘書広報部広聴課

さいたま市では、未来を担う子どもたちからの提案を市政に反映することを目的として「子どもの提案」制度を実施しています。

令和5年度後期は11月15日から12月15日にかけて募集を行いました。

寄せられた提案の概要及び市の方針をまとめたものを公表します。

▶テーマ 認知症の人にやさしいまちになるためには

認知症は、さまざまな脳の病気により、認知機能（記憶、判断力など）が低下して、日常生活に不具合が生じる状態をいいます。誰にとっても認知症は身近な病気であり、今後、認知症の人と関わる機会が増えていきます。

しかし、家族が認知症になったとき、誤解や偏見からそのことを隠してしまい、地域からの助けが得られにくくなる 경우가多くあります。

さいたま市は、そのような誤解や偏見をなくし、認知症の人が、住み慣れた地域で社会の一員として自分らしく暮らし続けられるようにしたいと考えています。

「認知症の人にやさしいまちになるためには」に関して、次の2つの提案を募集しました。

1：認知症を正しく理解するためには？

認知症の人は、何も分からない、何もできないわけではありません。誤解や偏見をなくし、正しく知るためのアイデアを聴かせてください。

→575人と10グループから、1,087項目寄せられました。

2：認知症の人やその家族を地域で応援するためには？

認知症の人やその家族が健やかに暮らせるように、一緒に地域で活動をする仲間を増やすためのアイデアを聴かせてください。

→435人と12グループから、799項目寄せられました。

テーマ

認知症の人にやさしいまちになるためには

1

認知症を正しく理解するためには？



いろいろな年代の人たちに、認知症のことを知ってもらいたいなあ。

認知症について学べる「認知症サポーター養成講座」に参加する人が増えてほしいなあ。



さいたま市認知症サポーター養成講座を開催しています



認知症サポーターの証
＜オレンジリング＞

認知症の人は、何も分からない、何もできないわけではありません。誤解や偏見をなくし、正しく知るためのアイデアを聴かせてください。

2

認知症の人やその家族を地域で応援するためには？



認知症の人やその家族の声を聴いて、一緒に考え、解決する仲間が増えてほしいなあ。

そんな仲間たちの輪、「チームオレンジ」があるから、もっとたくさんの人に参加してほしいね。



厚生労働省「本人を中心としたチームオレンジの整備」

認知症の人やその家族が健やかに暮らせるように、一緒に地域で活動をする仲間を増やすためのアイデアを聴かせてください。

テーマやご意見・ご提案に関する問合せ先

福祉局 長寿応援部 いきいき長寿推進課

TEL 048-829-1257

1：認知症を正しく理解するためには？

提案概要（1）

「学校教育の中で「認知症」について学ぶ機会を持つ」

寄せられた提案概要

- ・小・中学校の特別授業などで認知症の授業を行い、子どもたちに認知症に関する正しい知識を身に付けてもらうと良いと思います。
- ・さいたま市の全小・中学校に、認知症サポーターの人の話を聴く授業を導入すると良いです。
- ・学校の授業などで「もしも身近な人が認知症になったらどうするか」ということを学び考える学習の時間を設けると良いです。
- ・小学校の授業時間の1時間を使って、認知症について自分で調べてノートに感想を書くということをするれば良いと思います。
- ・小学校低学年の段階から、認知症について学習する機会を設けると良いです。
- ・認知症について正しい知識を若いうちに身に付けてもらうために、市内の小・中学校に出前授業をしてほしいです。
- ・学校での学習の一環として「認知症サポーター養成講座」や「老人ホームでの会議」の様子を見学するなど、校外学習を推奨します。
- ・小学校や中学校で、認知症の家族の方、病院に勤務している方が、小学生や中学生を対象に講義をするとう良いと思います。
- ・小・中学校で、総合の授業で認知症について自分たちで調べる時間を設けたり、認知症をテーマにみんなで考えたりする、道徳の授業で認知症の方の周りの人のお話を題材にして授業を行う、などと良いと思います。

など 243 項目

さいたま市の方針

本市では、認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを9万人以上養成しており、大人に限らず、これまで市内の小・中学校などでも児童や生徒を対象に講座を開催しています。

いただいたご意見にもあるように、人格の形成の重要な時期である子どもや学生が認知症について学び、理解を深めることは大変重要です。

引き続き、学校や教育委員会と連携して、学校教育の中で認知症への関心や理解が深まる機会を持てるよう検討していきます。



提案概要（2）

「認知症に関する講演会や講座の開催、認知症の人や家族などと触れ合えるイベントを行う」

寄せられた提案概要

- ・認知症を知らない人に理解してもらえるよう講座や説明会を開いたり、認知症の体験ができるような体験会を開いて認知症の人がどのような思い・状況になっているかを、たくさんの人に知ってもらいと良いと思います。
- ・年に数回、認知症についての正しい知識を学ぶ講座を開き、それを回覧板や掲示板等で知ってもらえるようにすると良いです。
- ・認知症は、認知症になってしまった人にしか分からないものなので、認知症になってしまった人に協力してもらい、認知症の人はどんな物が見えてどんな気持ちになるのかを、実際に認知症の人が認知症を詳しく知らない人に教えると良いと思います。
- ・老人ホームに行って実際に世話をしたり、老人ホームや病院などで働いている人たちの講演会を開くと良いと思います。
- ・ゲーム内でバーチャル空間を作成し、メインのオブジェとして認知症の木を作成して、そこに認知症の人々の声や意見などを書いてもらいます。その声や意見を基に資料を作成し、年に何度かそのバーチャル空間を一般開放して、そこで認知症について知ってもらおうと良いと思います。
- ・さいたま市内で開催される大きなイベント（お祭り、サッカーの試合など）で、認知症について学べる特設ブースを設置し、知ってもらえるようにすると良いです。
- ・認知症について学べる「認知症サポーター養成講座」に参加する人を増やすと良いのではないのでしょうか。

など 334 項目

さいたま市の方針

本市では、認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを養成するため、「認知症サポーター養成講座」を開催しています。

このほか、毎年9月の認知症月間には、認知症に関する講演会を開催しているほか、市内27か所の高齢者の相談窓口「シニアサポートセンター（地域包括支援センター）」では、「オレンジカフェ」を開催しています。

「オレンジカフェ」は当事者や家族のほか、ボランティアの方も参加し、参加者同士の交流を図っています。

また、これからますます認知症本人の意見を反映した取組を進めていくことが求められます。

本市では、認知症本人が自身の希望や必要としていること等を本人同士で話し合う「本人ミーティング」を実施しており、今後「認知症本人大使」の任命やVRの体験等の取組を検討していきます。



提案概要（3）

「ポスター、チラシ、各種メディアで情報発信する」

寄せられた提案概要

- 小・中学校などで探究活動の1つとして、認知症についての理解を深めるパンフレットやポスターなどを作成し、公共施設などに掲示すると良いと思います。
- 地元の人から、啓発ポスターを募集して、それを掲示板などに貼れば、興味をもってもらえると思います。
- 認知症の人の1日をまとめ、その他に生活する上でどういうことが大変かを書いたポスターをデパートなどの公共施設に掲示するのはどうでしょうか。
- 各地域の回覧板で回したり、地域の看板に貼るなどをして、もっと「認知症サポーター養成講座」というものがあることを知ってもらえれば良いと思います。
- 認知症サポーター養成講座をもっと周囲に知ってもらえるよう、ポスターやポケットティッシュなどで宣伝すると良いと思います。
- 沢山の人に知ってもらうために、専門家の方などと一緒に正しい情報を基に動画を作り、動画投稿サイトやテレビ・ラジオのCMで流すと良いです。動画はスキップできない仕組みとし、インターネット上にアンケートを設けるのも良いと思います。
- 駅前の大型モニターで宣伝するのはどうでしょうか。
- 認知症をテーマにした映画やドラマを作ると良いと思います。
- 図書館の「今知ってほしいこと」のようなコーナーを作り、認知症が題材となっている小説や絵本、マンガなどを置くと良いです。
- 小さい子どもでも飽きないような、オレンジリングを作るイベントを開くと良いと思います。

など 289 項目

さいたま市の方針

本市では、認知症に関するチラシ、ポスター、ホームページ、SNSなどのほか、「認知症ガイドブック」を作成しています。

ただし、認知症に関わりのある方や、関心の高い方への呼び掛けや利用にとどまっているかもしれません。

今後、いただいた提案にあるような様々なメディアや媒体を活用した情報発信や、参加型のイベントなどを検討していく必要があります。

いただいたご意見は、今後の情報発信等の参考にさせていただきます。



提案概要（４）

「支援を充実させることで認知度を向上させる」

寄せられた提案概要

- ・医療技術の進歩などで認知症の人を救えるようにするために、病院や研究所などに寄附をして、ニュースなどに放送されるようにすることで認知症を周知させると良いと思います。
- ・認知症の人やその家族にお金が届くような保険制度を作ると良いと思います。
- ・市役所等に認知症の人はどのような症状があるのかを知れるブースを作ったり、そもそも認知症になったときに相談することができる相談窓口（電話やメールも使えるようなもの）を作るべきだと思います。
- ・認知症の人を考慮したバリアフリーのデザインを普及させて介護者の負担を減らしたり、介護者への支援または養成などを行うことで、地域全体の関心を高め正しい理解を得ると同時に、認知症の人やその家族を応援することができると思います。
- ・難しいかもしれませんが、認知症の人のための施設を増やすということだと思います。それにより家族の負担が減り、認知症の人も安心な環境を作れると思います。

など 85 項目

さいたま市の方針

認知症は、予防、医療、介護などの直接的なサービスの充実のほか、移動、買い物、金銭管理、生活支援など、日常生活の様々な領域で支援が必要となります。

本市では「もの忘れ検診」や介護保険制度による給付サービスのほか、「シニアサポートセンター（地域包括支援センター）」をはじめとした相談窓口を設置しています。

今後は、こうした支援に加えて、いただいた意見を参考に、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指して、「共生」の取組を一層推進していく必要があります。

これまで取り組んできた認知症サポーターの養成を引き続き進めるとともに、その発展版として認知症の人やその家族の支援ニーズにあった具体的な支援を行う本市の「チームオレンジ」の取組を推進していきます。



提案概要（５）

「疑似体験や認知症予防の取組、危機感を持つことで、身近なものと感じてもらう」

寄せられた提案概要

- 老人ホームなどで認知症を防ぐ活動をする。認知症の定期検査を推奨するポスターを貼ると良いと思います。
- VRなどで認知症の人からの視点を体験できる施設を作ると良いです。アプリや動画を使用するのも良いと思います。
- もし認知症になったときどうするかを家族で話し合うことを推奨すると良いと思います。

など 67 項目

さいたま市の方針

認知症は誰もがなり得るものであり、家族や身近な人が認知症になることなどを含め、多くの人にとって身近なものとなっています。

本市では、認知症予防や早期発見の取組として、介護予防教室やもの忘れ検診を実施しています。

また、認知症に関する正しい知識を持って、地域や職域で認知症の人や家族を手助けする認知症サポーターの養成を進めるとともに、ご提案のVRの体験等の取組を施策に取り入れることなども検討していきます。



提案概要（6）

「認知症の人の活躍の場を増やす」

寄せられた提案概要

- 認知症の人々の社会復帰を目指すため、認知症の人々が注文を取る食堂を作って「注文を間違える食堂」とすれば、認知症の改善にもなるのではないのでしょうか。
- 認知症の人が独自に事業を行おうとしている場合に援助すると良いと思います。
- 認知症の人にもできる仕事はたくさんあるので、認知症の人も雇う会社（仕事）を増やしてほしいです。
- 認知症患者への偏見をなくすために、認知症患者のみでのスポーツ大会などを行うと良いと思います。
- 認知症の人と一緒にレクリエーション等の地域交流ができる機会があったらいいと思います。実際に認知症の方に何かしらのプロジェクトや演劇などを企画してもらい、実際に実行してみればいいのではないのでしょうか。

など7項目

さいたま市の方針

認知症の人が生き生きと活動している姿は、認知症に関する社会の見方を変えるきっかけにもなり、また、多くの認知症の人に希望を与えるものでもあると考えられます。

本市では、認知症本人が自身の希望や必要としていること等を本人同士で話し合う「本人ミーティング」を実施しています。

また、認知症の人やその家族の支援ニーズにあった具体的な支援を行う「チームオレンジ」の取組を推進していきます。

今後「認知症本人大使」の任命の検討や、認知症の人が役割を持ち、活躍の場が広がるように、市民や企業・団体等と連携しながら取り組んでまいります。

いただいたご提案は、こうした施策を推進していく上での参考にさせていただきます。



提案概要（7）

「認知症であることがわかるマークやGPSを付ける」

寄せられた提案概要

- ・ 認知症の人が付けるリングや、「助けてほしいです。」と書かれているマークのようなものを作ると良いと思います。
- ・ もし迷子になってもすぐ分かるようにGPSを付けると良いと思います。
- ・ 認知症の人が一人で出ていってしまったときに備えてGPSを付けると良いです。
- ・ 認知症を示す、大きく目立つキーホルダーなどを作り、配ると良いと思います。学校でもそのことについて教え、理解してもらおうと良いです。
- ・ 地域にもサポートをしてもらうためにも、任意で認知症のステッカーを送り、玄関ドアに貼ってもらう事で、周りの人のサポートを得られるようになるのではないのでしょうか。

など 26 項目

さいたま市の方針

本市では、認知症により外出中に行方の分からなくなった高齢者等向けに、小型端末機（GPS）の貸出しや2次元バーコードを活用した「さいたま市認知症高齢者等見守りシール事業」、地域の介護事業所や企業等にご協力いただき、行方不明者の早期発見・保護をするための「徘徊見守りSOSネットワーク事業」を実施しています。

ご提案のキーホルダーやステッカーについては、周囲のサポートが受けやすくなることが期待できる一方で、認知症の方への差別や偏見を助長したり、「支援する人、される人」という関係が固定化し、地域で共に活動していくことに差し支える可能性もあります。

認知症は誰もがなり得るものであり、家族や身近な人が認知症になることなどを含め、多くの人にとって身近なものとなっています。

今後、誰もが認知症の知識を持ち、偏見や差別をなくし、ちょっとした工夫や気遣いができる地域づくりを進めていく上で、必要な提案であると考えます。



提案概要（8）

「認知症であることを本人や家族などが隠さないようにするなど、市民の意識を変える」

寄せられた提案概要

- ・認知症の人やその家族を応援するために、認知症の人の家族の気持ちなど相手の立場や状況を想像して思いやりの心を持つことで、他人事と捉えるのではなく身近なこととして捉えるようにすると良いと思います。
- ・認知症になっている方、その人を世話している方たちが積極的にその症状や、困っていること、認知症でもできること、助けが必要なこと、今行っている取組のことなどを公に発表していくなどの活動の活発化が必要だと思います。

など 35 項目

さいたま市の方針

認知症は誰もがなり得るものであり、家族や身近な人が認知症になることなどを含め、多くの人にとって身近なものとなっています。

今後、誰もが認知症の知識を持ち、偏見や差別をなくし、ちょっとした工夫や気遣いができる、地域づくりを進めていく上で、いただいたご意見は必要な提案であると考えます。



提案概要（9）

「正しく理解することは困難」

寄せられた提案概要

- ・認知症は正しく理解できないと思います。

1 項目

さいたま市の方針

認知症は誰もがなり得るものであり、家族や身近な人が認知症になることなどを含め、多くの人にとって身近なものとなっています。

令和6年1月に施行した「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」では、認知症の人を含めた国民一人一人が共生社会の実現を推進するために必要な認知症に関する正しい知識及び認知症の人に関する正しい理解を深めることなどが責務とされました。

引き続き、一人でも多くの市民の方に認知症についての理解を深めていただけるよう、様々な認知症施策を推進していきます。



2：認知症の人やその家族を地域で応援するためには？

提案概要（1）

「家族の負担を減らす」

寄せられた提案概要

- ・市役所の職員などを対象とした講義を行うことによって、職員の間での理解を広めていくことが第一だと考えます。職員が理解を広げることによって、認知症の人々に寄り添った、政策などを行うことができると思ったからです。
- ・認知症の人やその家族などの人が気楽にそれぞれの悩みを話すことができる場を設けたり、すでにあるものを改善したり規模の拡大などをして、その次に、そのような場で話される意見などを市が聞いて、その意見などをできる範囲で実現し、市と市民が協力して市民が生活しやすい市を作ってほしいです。
- ・認知症になった人たちのために募金などを行い、認知症の人を介護する人を雇ったり認知症の人を介護する介護施設を作ったりして、認知症の人でも生きやすい環境を作ると良いと思います。
- ・認知症の人専用の病院や施設を作り、毎日認知症の人が通うことができるようにしたり、また、認知症の人が遊べる環境を作ると良いと思います。
- ・市や町の手が空いている人たちで認知症の人をお世話するボランティア団体のようなものを作ると良いです。
- ・認知症の方がいる家に定期的に保健師さんや看護師さんを派遣し、様子や家庭が崩壊していないかを確認したり、認知症の方がいるということを周囲の家にも伝え、もしも逃げ出してしまうなどの時に止めるなど、近所同士でできる対策をすると良いと思います。

など 188 項目

さいたま市の方針

介護者の負担軽減のため、通所介護や訪問看護、短期入所生活介護、小規模多機能型居宅介護等の介護保険サービスの活用を引き続き進めていきます。

また、認知症の人やその家族が地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う場である「オレンジカフェ」を活用した取組や、認知症の人やその家族の支援ニーズにあった具体的な支援を行う本市の「チームオレンジ」の取組を推進していきます。

このほか、認知症の方の家族を含めて、高齢、障害、疾病等により援助を必要とする方を無償で介護、看護、世話等を行う、いわゆる「ケアラー」の方を対象とした相談窓口や電話相談等の取組を進めてまいります。

市の職員を対象にした認知症サポーター養成講座も開催しており、いただいたご意見を踏まえて家族負担の軽減に資する施策を推進していきます。



提案概要（2）

「バリアフリー、周囲の協力など認知症の人が暮らしやすい環境を作る」

寄せられた提案概要

- 多くの情報がまとまっていると認知症の人は混乱してしまうため、情報を一つずつバラバラに段階的に伝えるなど認知症の人のためのバリアフリーを目指すが良いです。
- 人によって認知症の症状もそれぞれ違うため一貫して認知症の人の生活を全て手助けしようとするのではなく、認知症の人はどこまでできて、どこまでできないのかを知り、その人の個性として認め「共生」の認識を広めることが大切だと思います。
- レストラン、図書館、ショッピングモールなどに専門訓練を受けたりした人がいる案内を設置すると良いと思います。
- 妊婦さんが付けているマークと同じような目的でマークを作ると良いと思います。それには脳や体が不自由ですなどは書かず、ただ助けを必要としていることが伝わるマークが良いです。それを身に付けることで病名やその病気だから助けてもらおうということを気にせず、ただ助けてくれたということに感謝できると思います。そのようなマークの意味や目的も兼ねて普及させると良いです。
- 認知症の人たちと一般の人たちが同じ場所に集まって小さな悩みやうれしかったことなどを共有する場を設けると良いのではないのでしょうか。

など 165 項目

さいたま市の方針

認知症の人の多くが、認知症になることで、買い物や移動、趣味活動など地域の様々な場面で、外出や交流の機会を減らしている実態があります。

このため、移動、消費、金融手続き、公共施設など、生活のあらゆる場面で、認知症になってからもできる限り住み慣れた地域で普通に暮らし続けていくための障壁を減らしていく「認知症バリアフリー」の取組を推進していきます。

ご意見やご提案は、本市の「チームオレンジ」の取組を進めていく上で、参考にさせていただきます。生活に身近な店舗や施設等の認知症への取組や、認知症の人も参加するサロンや体操、趣味等の地域活動についても支援してまいります。

認知症の人が助けを必要としていることが伝わるマークの導入については、認知症の本人の尊厳や意向に配慮しながら、更にはその家族の意見等も伺いながら、事業の参考にさせていただきます。



提案概要（3）

「チームオレンジを増やす」

寄せられた提案概要

- チームオレンジの取組について「市報さいたま」やポスターに載せて知ってもらえるようにすると良いと思います。
- 認知症のことをもっと知り、また、認知症の方と直接触れ合うことで、認知症をより身近な病気と感ずることが出来ます。それをきっかけに認知症に興味を持った学生たちが「チームオレンジ」などを通じて認知症の人やその家族を支援する、また学生たちが家で親に話すことで親世代、さらには社会全体が「チームオレンジ」の存在や、認知症とは何なのか知ることにつながります。
- チームオレンジの行動内容や実績を市のホームページ上で公表し、チームオレンジの魅力をさいたま市に住んでる人に伝えるのが良いと思います。

など 14 項目

さいたま市の方針

本市の「チームオレンジ」の取組を周知するため、市立学校や図書館、公民館をはじめとする市内公共施設や地域包括支援センター、登録いただいた郵便局などの事業所等にポスターやチラシを配布しています。

また、登録いただいたチームの活動内容等は、市のホームページやガイドブック、チラシ等にも掲載して、チームの魅力が伝わるように取り組んでいるところです。チームの中には、学生と認知症の人との多世代交流も始まっているところがあります。

「チームオレンジ」の取組が広く周知され、一人でも多くの市民や企業等の皆さまが「認知症とともに生きる」地域づくりに参加していただけるように、いただいたご意見を参考にしながら、引き続き取り組んでまいります。



提案概要（４）

「認知症の人に生きがいを持ってもらう」

寄せられた提案概要

- ・ 認知症の人たちでも働くことができるような仕事を提供すると良いと思います。
- ・ 認知症の人の集まりを作ると良いと思います。例えば、週1回みんなで料理をする、運動をする、ピアノを弾くなど生活の一部に習慣として定着させれば認知症の方の楽しみも作れるし、その集まりに参加したその家族同士も情報交換や悩み相談が出来て、不安やストレスなどを少しは軽くできると思います。
- ・ 認知症の人も楽しめるように、認知症の人やその家族に「こうしてほしい」など意見を聴くと良いと思います。
- ・ 認知症だからといって特別扱いはせず、ケアをしながらゲームや趣味ができるような環境を作ると良いと思います。

など 47 項目

さいたま市の方針

認知症の人が生き生きと活動している姿は、認知症に関する社会の見方を変えるきっかけともなり、また、多くの認知症の人に希望を与えるものでもあると考えられます。

本市が取り組んでいる「チームオレンジ」は、支援する人、支援される人という関係を乗り越えて、認知症の人も同じ地域のパートナーとして、自分の住み慣れた場所で自分らしく生きることができるまちの実現を目指しています。

地域活動のほかに、認知症の人を取り巻く小売業や金融機関、生活関連企業など、そこで働く従業員が認知症について正しい理解や行動を促す、認知症の人が働きやすい環境づくりに取り組んでいる企業等を登録して、その輪を広げていく取組もスタートしています。また、一部のデイサービスでは、認知症の人に役割を任せて作業などを行う取組が始まっています。

いただいたご意見は、本市の「チームオレンジ」が目指す取組の参考にさせていただきます。引き続き認知症の人が役割を持ち、活躍の場が広がるように、市民や企業・団体等と連携しながら取り組んでまいります。



提案概要（5）

「認知症の人がいる家族への共感を持つ」

寄せられた提案概要

- 認知症の人の気持ちを共感して未来の子へその事を言い受け継いであげることが、今の若者にできることではないかと思いました。
- 認知症に関わる人が周囲の人々から手助けしてもらえるために、認知症に関わる人々がどのようなことに苦労して、世間がどうあれば助かるのかを発信していくと良いと思います。

など 12 項目

さいたま市の方針

本市では、認知症の人やその家族が地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う場である「オレンジカフェ」や、介護している方同士が介護の疑問などについて情報交換したり、日頃の悩みを話し合ったりする「介護者サロン」を開催しています。

また、認知症の人やその家族の支援ニーズにあった具体的な支援を行う「チームオレンジ」の取組を推進しています。

このほか、認知症の方の家族を含めて、高齢、障害、疾病等により援助を必要とする方を無償で介護、看護、世話等を行う、いわゆる「ケアラー」の方を対象とした相談窓口や電話相談等の取組を進めています。

いただいたご意見は、認知症の人がいる家族の悩みや想いを多くの市民が知る機会にもなります。認知症の方やその家族の考えや想いをどのように集め、お伝えしていくか、さまざまな意見を伺いながら、引き続き検討してまいります。



提案概要（6）

「認知症について知ることで差別や偏見をなくしたり、自分ごととして捉える」

寄せられた提案概要

- 認知症を他人事だと思わず、自分もいつ発症するか分からないということと呼び掛けることで、そのために今できることを考えさせると良いと思います。
- 認知症をもっともっと知ってもらうために「認知症の日」みたいなものを作り広めるのはどうでしょうか。
- 認知症の誤解や偏見などを無くすために、スライドを作り、それを地域の方々に見てもらうと良いと思います。
- 誤解や偏見をなくすためには、地域の人全員が認知症について正しく理解しないといけないと思います。そのために、小学校や中学校で認知症について学ぶ講座を行い子どものうちから認知症について理解してもらうのが良いです。

など 229 項目

さいたま市の方針

認知症は誰もがなり得るものであり、家族や身近な人が認知症になることなどを含め、多くの人にとって身近なものとなっています。

本市では、認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを9万人以上養成しています。

人格の形成の重要な時期である子どもや学生が認知症について学び、理解を深めることは大変重要です。

このほか、毎年9月の認知症月間には、認知症に関する講演会を開催しているほか、市内27か所の高齢者の相談窓口「シニアサポートセンター（地域包括支援センター）」では、「オレンジカフェ」を開催しています。

引き続き、あらゆる世代の方が認知症へ関心を持ち、正しい理解を得られるように、ご意見を参考に取組んでまいります。



提案概要（7）

「認知症を予防したり進行を遅らせたりする」

寄せられた提案概要

- 認知症予防教室を開くと良いのではないのでしょうか。
- 安全に散歩などができるコースがある公園などをたくさん作ると良いと思います。
- AIで話し相手になるアプリを作ると良いと思います。
- 認知症にならないために65歳以上の定年で退職した人たちが交流する場を作ると良いと思います。
- 認知症の人達が運動や脳のトレーニングができる施設や団体を作ると良いと思います。
- 認知症の症状を遅らせるために、薬を作ってほしいです。そのため医学を応援すると良いと思います。

など57項目

さいたま市の方針

運動不足の改善、糖尿病や高血圧症等の生活習慣病の予防、社会参加による社会的孤立の解消や役割の保持等が、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されています。

地域の高齢者等が公民館や自治会館等で自主的に介護予防に取り組む「通いの場」を支援しています。

また、60歳以上を対象にした「シニアユニバーシティ」には、毎年多数の高齢者が入学し、仲間づくりや生きがいづくりに取り組んでおられます。

ご提案の中で、認知症予防に資する可能性がある取組については今後の参考にさせていただきます。



提案概要（8）

「相談できるようにする」

寄せられた提案概要

- ・認知症やその方の介護で何か困ったことがあったとき、辛い思いを打ち明けられるカウンセリングなどを作ってほしいです。
- ・認知症と診断された際に情報や悩みを共有できるコミュニティを紹介するのも良いと思います。
- ・認知症の方を家族に持つ方が、集まって情報を交換したり、悩みを相談できる場所があれば良いと思います。また、SNSなどで活動内容を報告すると良いと思います。

など 78 項目

さいたま市の方針

地域の高齢者等の保健医療・介護等に関する総合相談窓口であるシニアサポートセンター（地域包括支援センター）及び認知症疾患医療センターの周知の強化に取り組んでいます。

その際に「認知症ガイドブック（認知症ケアパス）」を積極的に活用し、認知症に関する基礎的な情報とともに、具体的な相談先や受診先の利用方法等が明確に伝わるように努めていきます。

本市独自の「もの忘れ検診」をきっかけに医療・介護の関係機関につながることでできたり、「オレンジカフェ」や「介護者サロン」で悩みや心配事を相談できたりすることもあります。

このほか、「認知症の人と家族の会」などの団体などにも相談することができます。

いただいたご意見は、介護で悩んでいるご家族やご本人が、一人で悩むことがないように、事業の参考とさせていただきます。



提案概要（9）

「地域住民同士を日頃から把握し、仲を深めておく」

寄せられた提案概要

- いろいろなイベントでコミュニケーションを取る機会を作り、地域にどのような人がいるかを把握しておくが良いと思います。
- 地域の人々が、その地域の認知症の人や家族のことを把握しておくために、認知症の人と地域の人々が接する機会を増やすと良いと思います。

など6項目

さいたま市の方針

地域住民の交流の希薄化、地域社会の機能低下が課題になっています。
地域のつながりや地域力を維持・向上させるための取組を強化し、地域に暮らす人々が適切に役割を分担しつつ、主体的に地域の課題を解決していくまちづくりを推進していく必要があります。

いただいたご意見は、事業の参考にさせていただくとともに、日頃から地域のなかで、認知症についてお互い様と言い合える関係作りが大きな力となります。今後も自主的な地域活動の、本市の「チームオレンジ」を、市内全域に広めて行けるように取り組んでまいります。



提案概要（10）

「応援する必要はない」

寄せられた提案概要

- ・ 応援したい人がすればいいと思います。

など3項目

さいたま市の方針

地域の方が、認知症の人やその家族を応援する場合の動機や関与の程度はさまざまです。

例えば、「認知症サポーター」は認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けするものです。

認知症に対して正しく理解し、偏見をもたないことや、認知症の人や家族に対して温かい目で見守ることも立派な応援になると思いますので、市の認知症施策へのご理解をお願いします。



令和5年度 後期 「子どもの提案」への ご協力ありがとうございました



令和5年度後期テーマ

- ・ 認知症の人にやさしいまちになるためには

皆さんからいただいた意見・提案は、今後のさいたま市を運営していく上での参考とさせていただきます。

今後も様々なテーマについて募集しますので、若い皆さんならではの意見・提案を、ぜひお寄せください。

令和6年3月 22 日



さいたま市

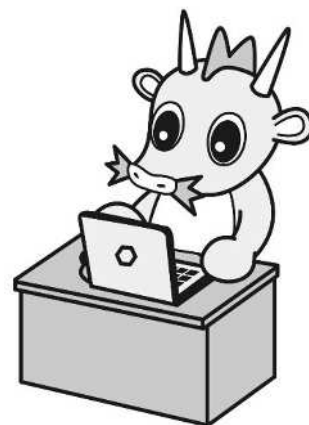
市長公室秘書広報部広聴課

お寄せいただいた主な提案概要と さいたま市の方針についての公表

この冊子は、各区役所情報公開コーナー及び
市ホームページでお知らせしています。

「『子どもの提案』制度」ホームページ

<https://www.city.saitama.lg.jp/006/002/014/index.html>



問合せ

さいたま市 市長公室

秘書広報部 広聴課 広聴係

直 通 048-829-1931

FAX 048-825-0665

E-mail : kocho@city.saitama.lg.jp